

大井川の洪水・浸水被害を防ぐ「平成の大改修」着工

◎建設課 ☎36・7186

大井川に突き出した牛尾山の一部を削って河道を拡幅する「平成の大改修」の着工式典が9月24日、国や流域自治体、地元自治会の皆さんなど約80人が参加して現地で行われました。式典では、工事の安全を祈願して、牛尾山に向かつて鎌入れが行われました。

金谷地区にある牛尾山は、大井川の流れを狭める「狭窄部」。このため、100年に一度の確率で発生する大洪水で、同地区の平坦部の多くが水深2m以上の浸水被害を受けると指摘されてきました。そこで、流域市町は「大井川改修促進期成同盟会」を結成。国や関係機関へ積極的に陳情を繰り返すなど、大改修は流域住民にとって長年



大井川左岸から見た牛尾山(川に突き出た部分)



牛尾山の裾野に鎌を入れて工事の安全祈願

の悲願でした。

今回の工事は、国の直轄事業で総事業費約30億円。平成31年度の完成を目指して、牛尾山の一部約22・5万㎡の開削を行い、川幅を現在の約300mから約450mに広げます。発生する土砂は、対岸の神座地区の堤防補強工事や流域市町の公共事業に使用する計画となっています。

大井川は、天正18年(1950)に、駿河領主の中村一氏と、遠江領主の山内一豊によって、相賀山と牛尾山が続いていたくぼみ(幅約380m)を切り開いて、大井川の流れを変える「天正の瀬替え」が行われ、金谷地区の旧河床上に新田開発がされました。

今回の大改修は、天正の瀬替え以来、約420年ぶりに行われる大規模な治水工事になります。

島田金谷バイパス4車線化建設促進期成同盟会が総会

◎都市計画課 ☎36・7177

今年度、国土交通省により国道1号島田金谷バイパスの現状2車線から4車線化への拡幅が事業化されました。これを受けて、市をはじめ、商工会議所、JA大井川、バイパス沿線自治会など15団体で組織される「島田金谷バイパス4車線化建設促進期成同盟会」が発足し、9月19日に第1回総会が市役所で開かれました。

総会で桜井市長は「これだけの公共事業がこの地に集中することは、またとないチャンス。地域一体となって要望の声を大きくあげ、着実な予算確保と円滑な事業促進につなげて欲しい」と呼び掛けました。



総会で地域の団結を呼び掛ける桜井市長

バイパス4車線化の区間は、島田市野田から掛川市佐夜鹿の10・4kmで、総事業費は約240億円。平成24年度は、道路設計や橋梁設計などを行う予定です。

処理灰の放射能濃度などの測定結果を公表

◎環境課 ☎34・1122

市では、5月23日に岩手県山田町の災害廃棄物約6tを、通常搬入ごみとの混合率約15%で本格溶解を行い、測定結果を公表しました(広報はまだ6月号・8月号参照)。今回は、8月9日以降の測定結果をお知らせします。測定結果によると、いずれの数値も問題はありませんでした。測定は、毎週1回実施し、ウェブ公開しています。

①田代環境プラザ敷地境界・周辺施設空間線量率					
5/21(本格溶解前)	8/9～9/12				
0.06～0.08 μSv/h	0.06～0.08 μSv/h				
②田代環境プラザ処理灰の放射能濃度 ※本格溶解					
単位: Bq/kg	5/24*	6/27	7/25	8/22	
セシウム134	42	44	25	25	
セシウム137	49	68	49	33	
③一般廃棄物最終処分場敷地境界4カ所の空間線量率					
5/21(本格溶解前)	8/9～9/12				
0.07 μSv/h	0.06～0.08 μSv/h				
④一般廃棄物最終処分場水(原水・放流水・地下水)の放射能濃度					
5/21(本格溶解前)	8/9～9/12				
不検出	不検出				

◎http://www.city.shimada.shizuoka.jp/kankyousisetu/gareki\_top.jsp

島田髷まつりでツアー商品化を目指す

◎観光課 ☎36・7163

市と川根本町は、大井川流域観光客誘致事業の一環として9月16日、島田髷まつりの開催に合わせ1泊2日のモニターツアーを行いました。

参加したモニターツアーは、首都圏のライターや写真家、警職人など15人。一行は、最初に石畳茶屋に立ち寄った後、大井神社などで島田髷まつり道中を見学。17日には、お茶の郷博物館で茶室体験した後、SLに乗車して、川根温泉や茶室館などを訪れました。

参加者からは、「盛りだくさんで内容が濃い」「効果的な情報発信が肝要」などといった声が寄せられました。



鵜田寺(野田)での奉納おどり

「こども館」の入館者数が1カ月で2万5800人に

◎児童課 ☎36・7159

本通三丁目の複合ビル「おび・りあ」の4階に8月5日にオープンした「こども館」の利用状況が、8月末までの開館日数24日間で、2万5758人、一日平均1073人となりました。

入館者数が当初の見通しを大幅に超えた理由として「安価な利用料金」「遊具の充実」「駅から近い立地条件」などが重なったことが予想されます。

また、利用者(大人)の内訳は「市内」が21%で「市外」が17%という結果に。市内の利用者だけでなく、市外からも



子どもたちの笑い声が絶えない「こども館」

姉妹都市スイスブリエンツ町でフルート演奏

◎秘書課 ☎36・7390

島田市を拠点に活動する「リブティフルートアンサンブル」の皆さんが、姉妹都市のスイス・ブリエンツ町を訪問し、フルート演奏を通して友好交流を深めてきました。

結成25周年を記念して、8月19日から25日までスイスを訪れた一行は、初めに町役場を敬訪問。桜井市長からの「来夏は、市民による訪問団を結成し、貴町を訪問させていただきたい」と書かれた親善メッセージをツインーマン議長へ手渡しました。その後、議場や有名な木彫りメーカー所有の



多くの聴衆を魅了したフルートの音色

山田町の新任町長が島田市民にがれき受け入れを感謝

◎環境課 ☎34・1122

7月の選挙で初当選した岩手県山田町の佐藤信逸町長が9月6日、災害廃棄物の受け入れを決断した桜井市長と、賛同した市民の皆さんへ感謝の思いを伝えるため、就任後初めて島田市役所を訪れました。

佐藤町長は「勇気ある決断をしていただき、大変ありがたかった。また、津波対策のため沿岸部の町民の高台移転を検討中で、移転予定地の埋蔵文化財調査にあたる学芸員の派遣をお願いしたい」と訴えました。

桜井市長は「東北の痛みを考えたら



当選を祝う花束を受け取る佐藤町長(右)

当たり前のこと。大部分の市民は誇りに思っている。学芸員の派遣については、検討していきたい」と応えました。